神都印刷帖 附 農業館掛圖の繪

明治廿四年以後所集 同卅七年三月貼附畢 田中芳男

B J
25

BJ—25
東京帝國大學圖書
B 61035
男爵田中義廉男氏寄贈
先代田中芳男男舊藏書
昭和七年
東京大学総合図書館

神苑別宮二見賓日館

著作者　磯部百鱗
三重縣度會郡宇治山田町
大字今在家町十三番屋敷

發行者　神苑會三重事務所
三重縣度會郡宇治山田町
大字豐川町百九番地

印刷人　上田幸吉
三重縣度會郡宇治山田町
大字曾禰町九十五番屋敷

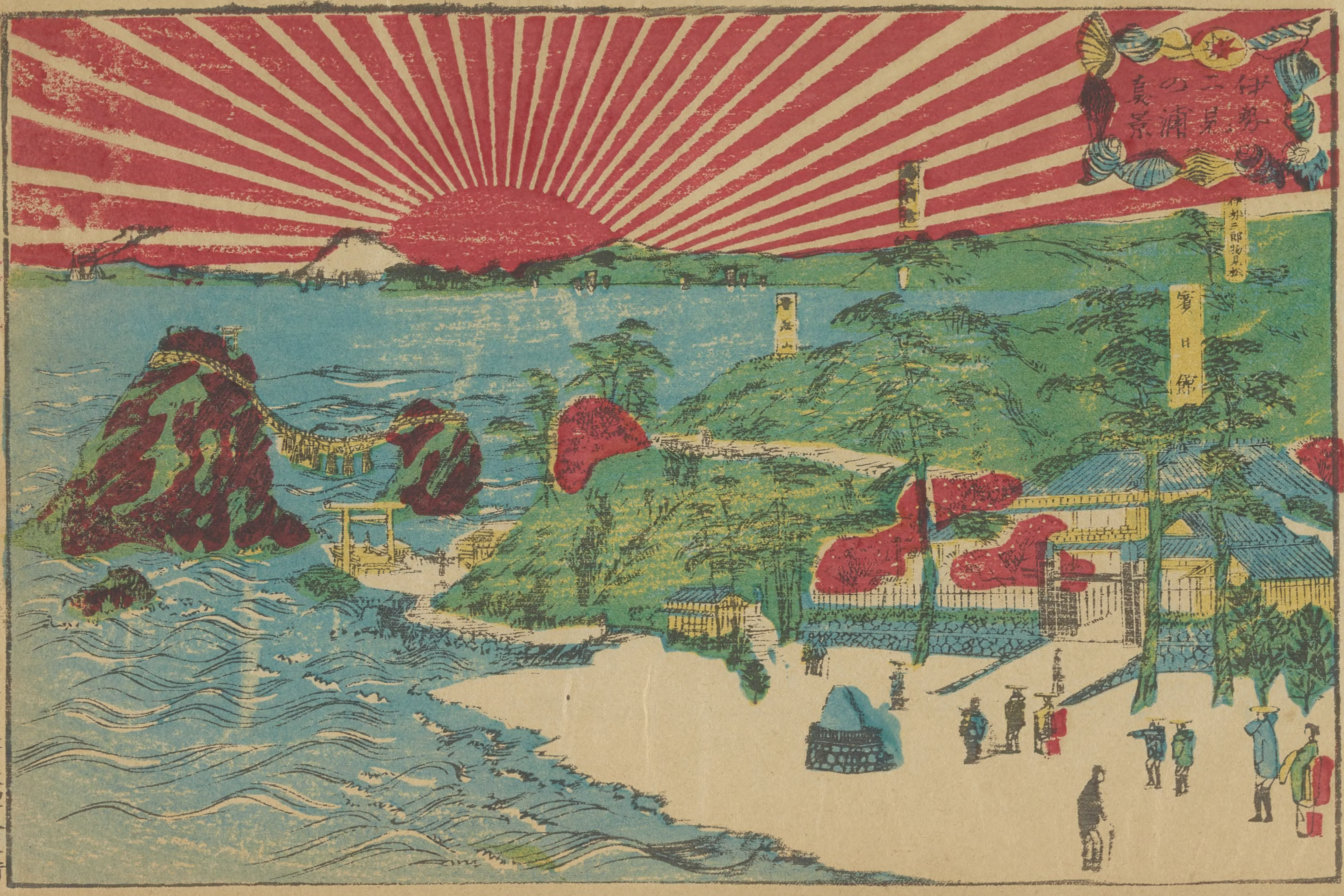
明治廿四年十一月十六日印刷
明治廿四年十一月十八日出版

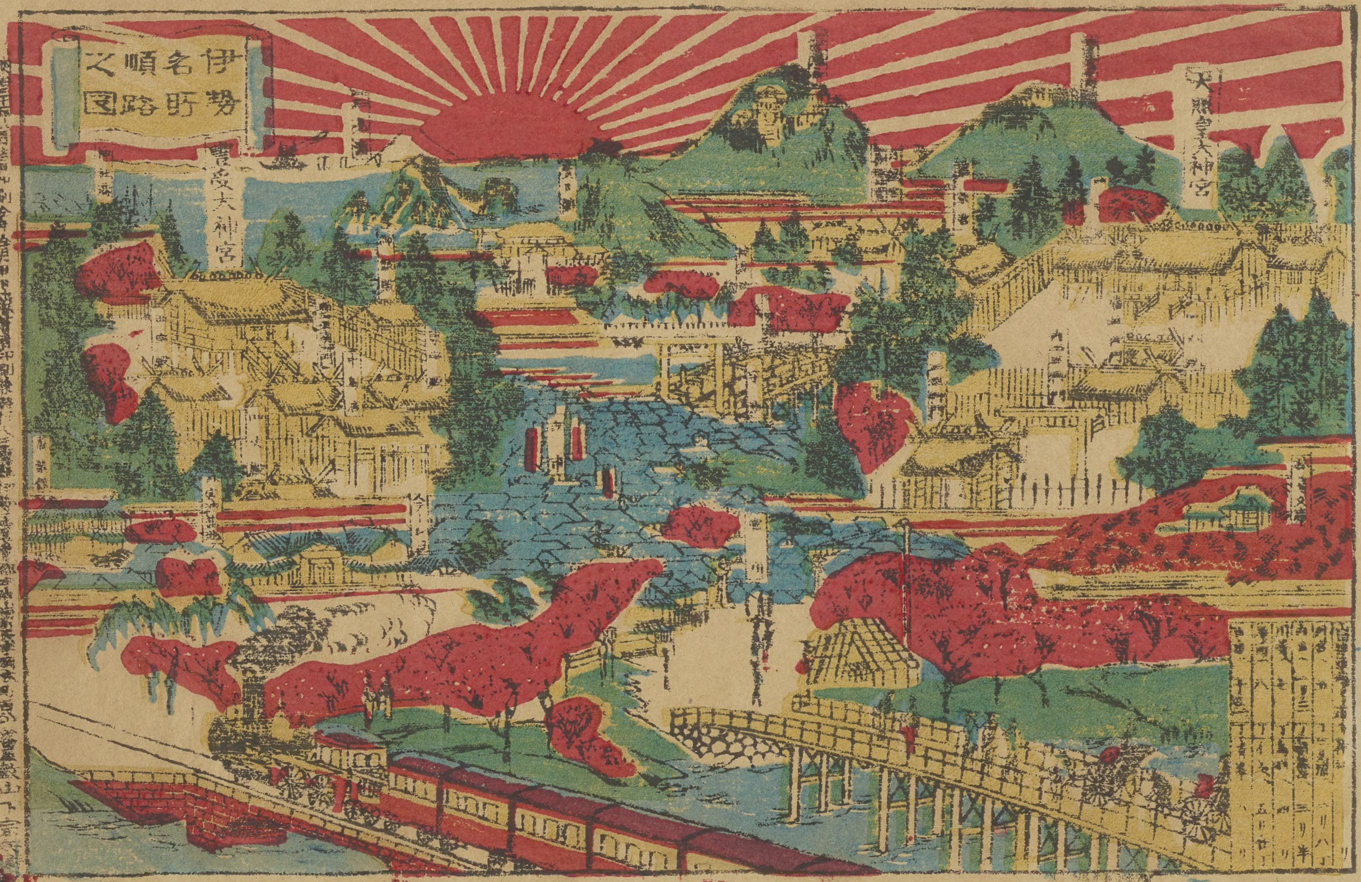
東京大学総合図書館

伊勢二見浦之畫

明治廿三年九月十七日印刷同年同月廿日出版
三重縣伊勢國度會郡宇治山田町大字浦口町七十番地
著者印刷兼發行人橋爪五兵衛

明治二十年十一月廿日印刷 仝年仝月廿五日出版 編輯兼印刷発行人 三重県伊勢国度会郡宇治山田大字岡本町百六番屋敷 山下宗兵衛





東京大学総合図書館

皇大神宮遷御式之圖

明治卅三年九月廿二日印刷仝年仝月廿九日発行伊七国度会郡宇治山田町大字尾上町四十一番邸印刷兼発行人伊藤末次郎

明治三十一年十二月廿二日印刷仝一月一日発行 著作兼発行人 三重縣度會郡宇治山田町大字岡本町二百廿七番邸平民 辻岡直一
印刷人 大阪市東區久宝寺町二丁目四番屋敷平民 田井久之助

明治廿年十二月廿二日印刷仝月廿日発行
著作兼発行印刷人 三重縣伊勢國度會郡宇治山田町大字中之切町四番屋敷 高田巳之助

明治二十年十二月廿三日印刷仝年十二月廿五日發行
著作兼發行印刷人 三重縣伊勢國度會郡宇治山田町大字中之切町四番屋敷 高田巳之助
發兌所 仝 町廿番屋敷 中田傳三郎

明治三十年十一月廿五日印刷 仝年十二月十日發行
著作兼發行印刷人 三重縣伊勢国度會郡宇治山田町大字中之切町四番屋敷 高田已之助
發兌所 仝 町廿番屋敷 中田傳三郎

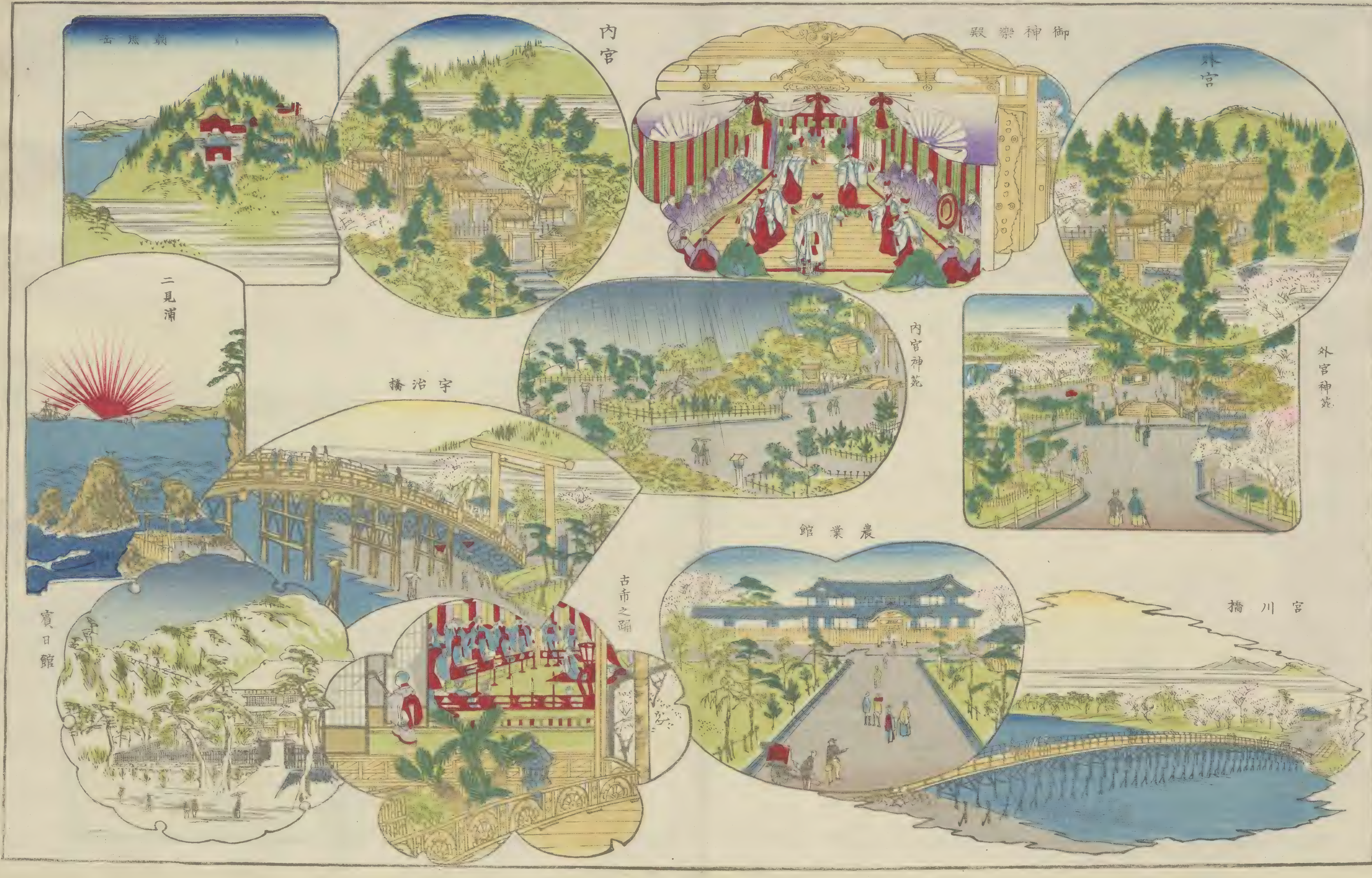
備前屋
伊勢古市 踊之圖 櫻花樓
明治廿八年八月廿日
仝年仝月三十日發行
重縣度会郡
丁大字岡本町二百十番
邸著者印刷兼發行人
德本常吉
東京大学総合図書館

伊勢二見浦之真景
明治卅二年二月七日印刷仝年仝月十日発行
三重県度会郡宇治山田字岩上町四十四番屋敷
著作印刷兼発行人 伊藤末次郎

東京大学総合図書館

明治三十年十一月廿五日印刷仝年十二月五日發行
著作兼發行印刷人 三重縣伊勢國度會郡宇治山田町大字中之切町四番屋敷 高田巳之助
發兌所 町廿番屋敷 中田傳三郎

伊勢名所十二景之圖



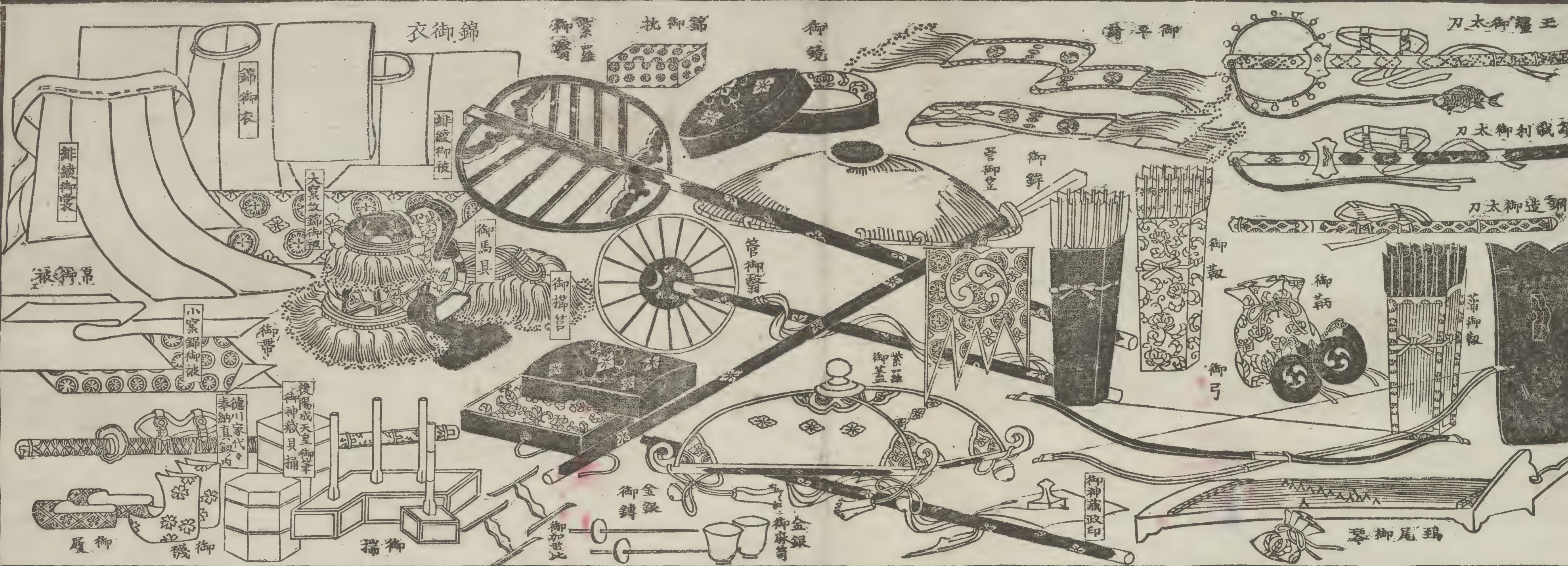
明治廿九年三月十六日印刷仝年仝月仝日出版著者印刷兼発行人
三重縣度會郡宇治山田町大字豊川町百三番屋敷西田新治郎

東京大学総合図書館

伊勢大神宮御寶物之圖

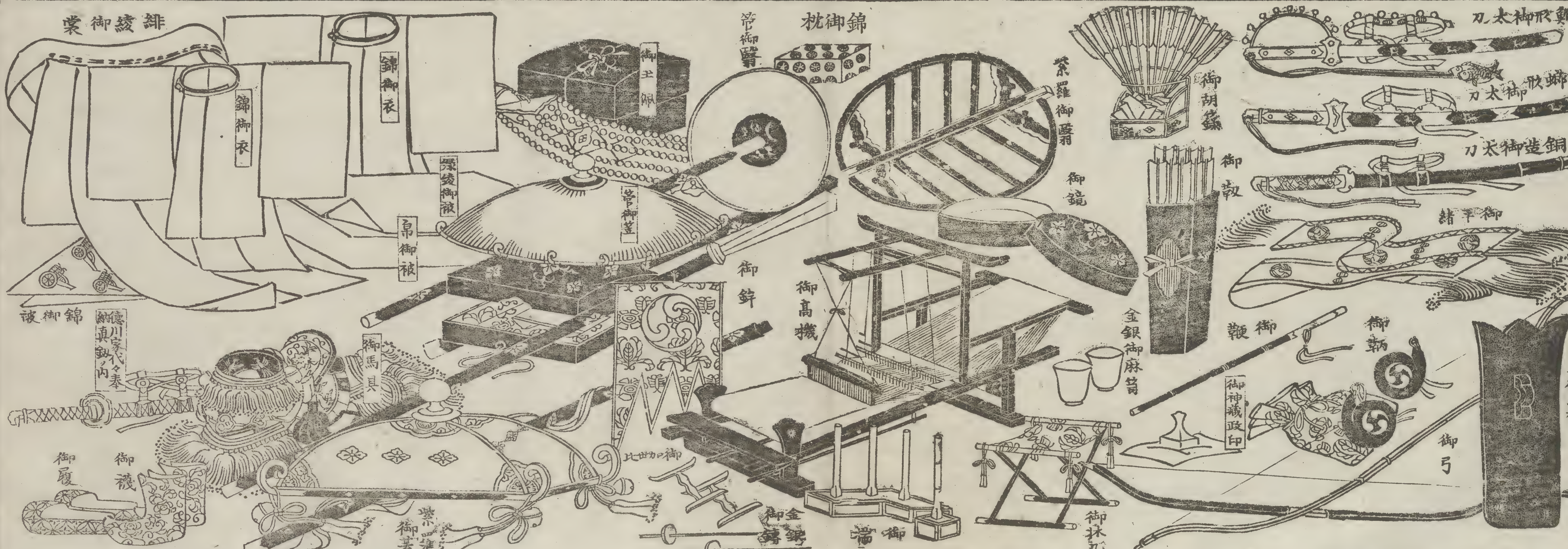
皇大神宮御神寶之圖

御神宝御装束類數種之内明治廿三年於皇大神宮域内御陳列之分拜觀謹眞寫



豐受大神宮御神寶之圖

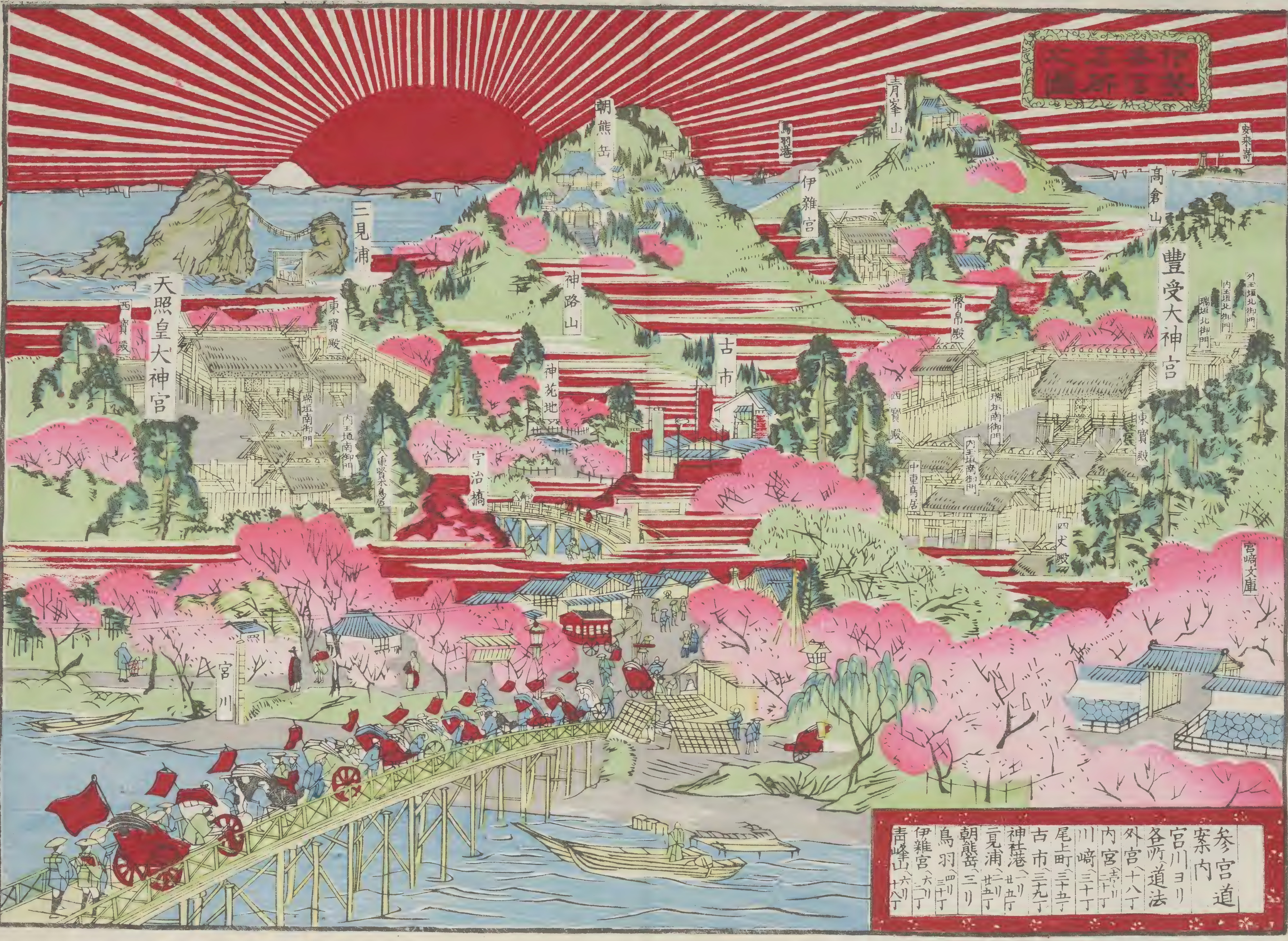
同上



版權所有

明治廿三年二月二日印刷同年同月三日出版 發行者 三重縣伊勢國度會郡宇治山田町大字今在家町七十六番地 擴地[illegible]

印刷人 伊勢国度會郡宇治山田町大字倭町三十七番邸 住野作枝門



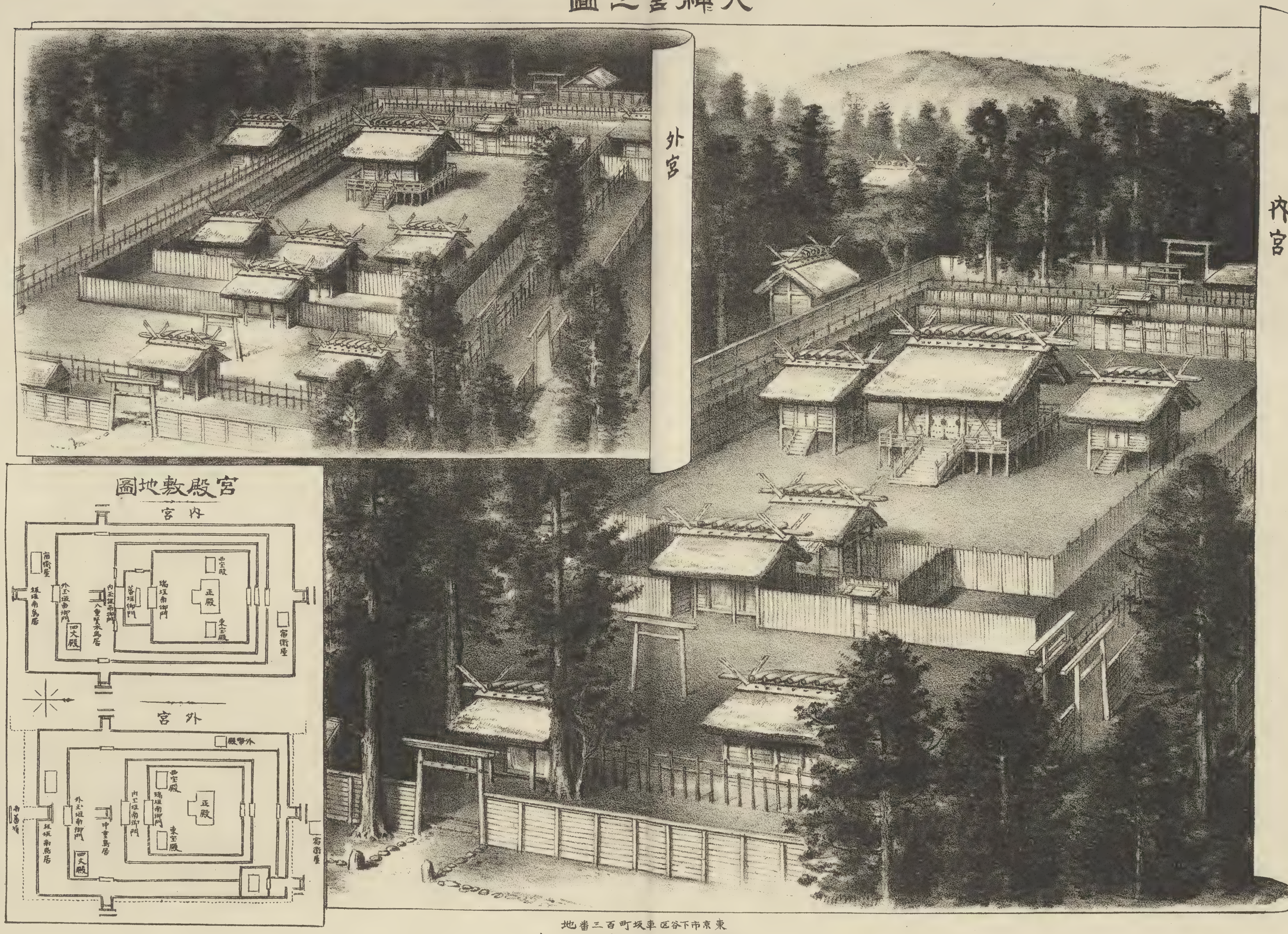
明治廿八年十二月一日印刷
同年同月十日發行
三重縣伊勢國度會郡宇治山田町大字宮後町八番地 著者兼發行者 松村熊藏
同郡同町大字中之郷町二番地 印刷者 山本卯之助

東京大学総合図書館

大神宮之圖

版權所有

明治廿二年九月九日印刷同十一日出版



印刷人　東京日本橋區本銀町三丁目十四番地　高橋定次郎

東京市下谷区車坂町百三番地
画工兼發行人　五姓田子之吉

明治新刊 伊勢両大神宮眞圖

版權所有

明治廿三年二月十七日印刷出版　編輯兼發行者　三重縣伊勢國度會郡宇治山田町大字吉帝十五番地白井安吉　印刷者　伊勢國津市地頭領町廿三番地書住謹次郎

東京大学総合図書館

伊勢朝熊岳之絵図

宮川 三り半
外宮 二り半
内宮 六十丁
古市 二り
二見 二り半
神社港 三り半
川崎 二り半
いそべ 三り半
鳥羽 一り卅丁

本堂 八間四面 東向
内宮之艮岳なり
本尊福威智満虚空蔵
大菩薩ハ三肱洞ヨリ
出現之霊像なり

古記 大神宮神詠
常にきて朝熊の
山の嵐にあそて
人乃往来つる
五十鈴川 このかみ

同しく
ほと月とを
到る北
池の水乃
たえぬつきりを
あまつひは きは
こりんちて
ほそん像

香海庵冨士見臺眺望之詩 釋村庵
曾聞人説思重々
香海庵前望士峰
四十由旬半空雪
雲間一朶玉芙蓉

一休禅師吟
波をのむ？ 子乃もちの ふじの雪

名物萬金丹
野間氏ハ源家の庶流にて五百有餘年連綿たる舊家なり蓋し萬金丹ハ曩祖徳正羽ヶ本尊の霊夢感得の備制衣にて済世のため数代施薬して家に秘しけりし我後世宜繁昌しける当時の長老に譲り元禄年間家之も勅許を蒙り売薬となし恐多くも海蔵禁中及び諸王方へ献上奉りし霊薬効験著明なることを以て我山の名産となり日本万金丹の元祖として海内に普く知らるゝ霊方なり

東京大学総合図書館

二見浦眞景之圖

版權所有

二見浦の記

神風の伊勢の國二見が浦ハ奇石怪巖立ち列なりて波ホ洗ひ風景の勝れたるのみならず名産の無垢塩もて身を清め立石嵜ホ垢離をかきて御志め結ひ渡せる間ひより昇る朝日の影を拝まれバ千早振神世の昔し忍バれて心も直く身も清々ごとく成りて皇祖の御魂今も尚照覧ま志ましまるよと仰ぎ見るも畏しや近き頃ハ御塩山の麓ホ新道を開きて往來の便とな志海濱ホ海水浴場を作りて衛生の助となせり賓日舘ハ過る明治廿年皇太后の行啓の折新ホ建て設けさる成りとぞ聞ゆ

明治廿三年二月十日印刷出版　編輯兼發行者　三重縣伊勢國度會郡宇治山田大字古市十五番地白井安吉　印刷者　伊勢國津市地頭領町廿三番地豊住謹次郎

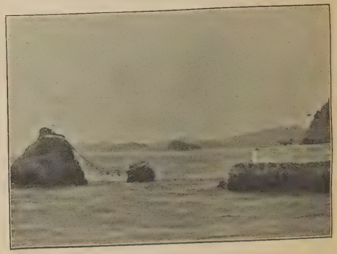
伊勢のおもかげ

内宮正面參拜之景

太々御神樂之圖

外宮御手植之松

二見浦賓日館



二見浦

内宮

内宮神樂殿

奉獻戰利大砲

外宮

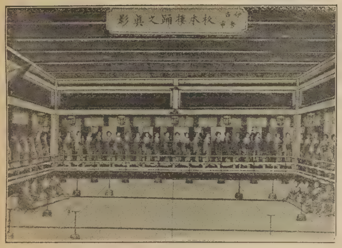
神宮教本院

宇治橋

神宮司廳

内宮一ノ鳥居の景

宮川之景



伊勢音頭の圖

二見海水浴場

小川一眞寫眞彫刻銅版及印刷

明治二十九年[illegible]月[illegible]日印刷 [illegible]月八日發行 伊勢國宇治山田[illegible]上町四十四番屋敷 著作印刷兼發行人 伊勢[illegible]郎

明治四十年三月 日印刷 仝年仝月 日發行
著作兼發行者 三重縣度會郡宇治山田町大字岩淵町百二十九番屋敷 田島万吉
印刷者 三重縣度會郡宇治山田町大字尾上町一番屋敷 森田孫助

東京大学総合図書館

版權所有 明治二十五年十二月七日印刷 仝年仝月八日出版 定價金貳銭 縮圖者 小峰茁庵

此圖解ハ明治廿四年四月伊勢國度會郡宇治山田町外宮神苑ノ前ニ建設スル農業館ニ揭クル掛圖ノ縮寫ナリ抑此館ハ農作、種樹、漁獵、牧畜、養蟲類ノ産物並製品及各種ノ標本、器具、模形、圖書、統計表等ヲ陳列シ參宮者ノ來觀ニ供シ以テ智識ノ發達ヲ促シ實業ノ便益ヲ知ラシメンコトヲ企圖スルニヨリ掛圖ノ如キモ漸次編成スル所ナリ

東京 神苑會幹事 田中芳男 記

撰種圖解の一

撰種の利益

稲を作るに種籾を撰ぶは最も肝要のことにして其の撰方に鹽水撰、水撰、苦塩水撰、泥水撰等あり又良穂を抜き採る杯いろ〳〵の方法あれとも其の中塩水撰ハ行ひ易く且つ効験著るきものとす因て爰ニ其方法を施せし種籾ト普通の撰種せざる種籾とニ就き播種より収穫ニ至る迄の繪畫を示して其の利益なるを解し易からしむ圖中甲ハ塩水撰の方ニして乙ハ普通の撰種せざる方なり

(一) 塩水撰種の法

塩水を以て種子の善悪を見別くるの方法ハ先つ水壹斗ニ食塩凡そ四升(即ち一貫百匁乃至貳百匁)を入たる割合の塩水を桶ニ満て笊を入れ此ニ種籾を入るれハ善種ハ笊の底ニ沈ミ悪種ハ水上ニ浮ぶものなり今其の善悪を手軽ニ見別けんとせハ其の塩水を硝子の水呑ニ入れ夫へ種籾を浸し試むべし必ず實入りたる種ハ沈みて不良種ハ浮ぶものなり水上ニ浮びたる悪種は網杓子又ハ節の如きものにて抄ひ去れバ善種のみ笊の底ニ残るこれを笊のまゝ桶より取り出し清水にて數回洗ひ遂ニ種子を嘗めて全く塩氣なきを度として種俵へ収む但し塩水ニ種を撰ぶはたゞ善悪を別つ目的なれバ永く浸すべからず(第一圖イよりルまで)

第一圖

明治廿五年八月 東京 田中芳男 再校
印刷兼發行者 東京芝區濱松町二丁目十五番地 鈴木卯之吉
賣捌所 仝區三田四國町壱番地 東京三田育種場

神苑會農業館掛圖畫會

版權所有 明治二十五年十二月七日印刷 仝年仝月八日出版 定價金貳銭 縮圖者 小峰茁庵

此圖解ハ明治廿四年四月伊勢國度會郡宇治山田町外宮神苑ノ前ニ建設スル農業館ニ揭クル掛圖ノ縮寫ナリ抑此館ハ農作、種樹、漁獵、牧畜、養蟲類ノ産物並製品及各種ノ標本、器具、模形、圖書、統計表等ヲ陳列シ參宮者ノ來觀ニ供シ以テ智識ノ發達ヲ促シ實業ノ便益ヲ知ラシメンコトヲ企圖スルニヨリ掛圖ノ如キモ漸次編成スル所ナリ

東京 神苑會幹事 田中芳男 記

撰種圖解の二

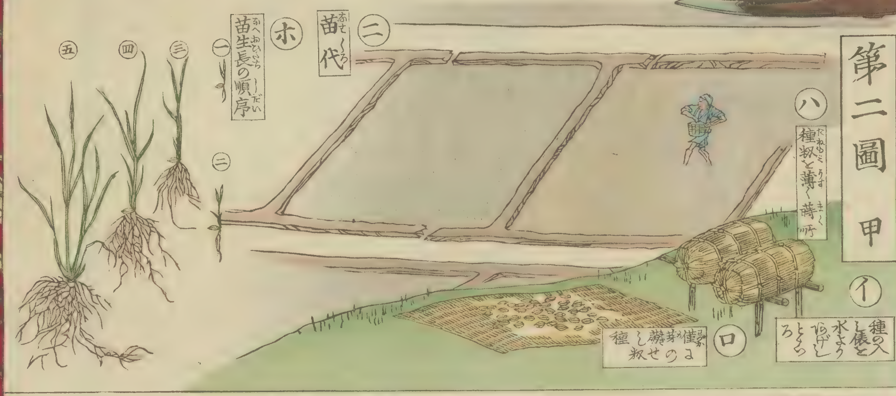
(二) 種籾の浸水並ニ蒔方

種籾を池川等の水ニ浸す時間凡そ二十日間許ハ普通の方とすれども塩水撰の種籾ハ凡そ七日間浸すを度とすまた苗代ニ蒔く前ニ普通の方ハ日光ニ曝し或ハ水を與へて芽の萌しものを蒔くなれども塩水撰の方ハ普通法の如く芽の萌るを要せず僅ニ芽の萌せしを下ろすその蒔き方ニ於ても塩水撰ハ薄く蒔くがよろしく普通の方は七八升を要するなれハ塩水撰ハ三四升なれバ事足るなり(第一圖ヲより第二圖甲のイよりハまで)

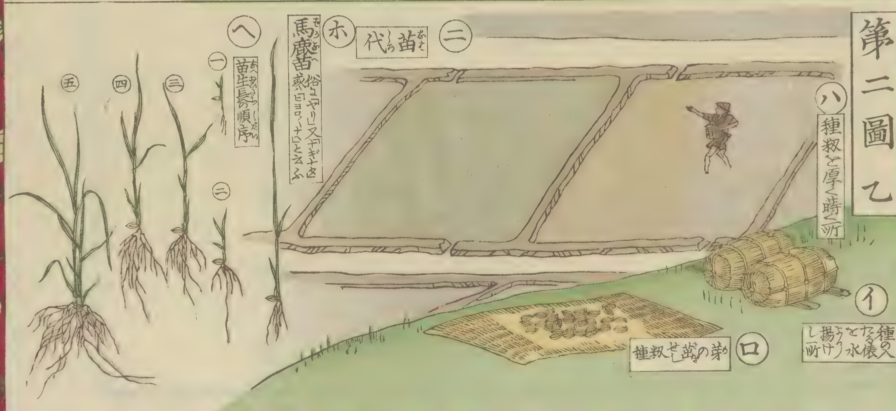
(三) 苗の發育

普通の方ハ種籾を厚く蒔くゆゑニ其の生じたる苗ハ葉並甚だ不揃ひにして其の中ニ針の如く伸び葉細く瘠せ根張り少くして弱き苗なり俗ニ之を馬鹿苗(第二圖乙)と云ふ是等ハ育つも實を結び難し之ニひきかへ塩水撰の方は薄蒔きゆゑニ疎ニ生じ今芽一二本を萌し苗揃ひて弱きもの無く根張り多く莖肥へ太りて健かなり(第二圖甲の二よりホまで)

第二圖 甲



第二圖 乙



明治廿五年八月 東京 田中芳男 再校
印刷兼發行者 東京芝區濱松町二丁目十五番地 鈴木卯之吉
賣捌所 仝區三田四國町壱番地 東京三田育種場

東京大学総合図書館

會彙圖掛館業農會苑神

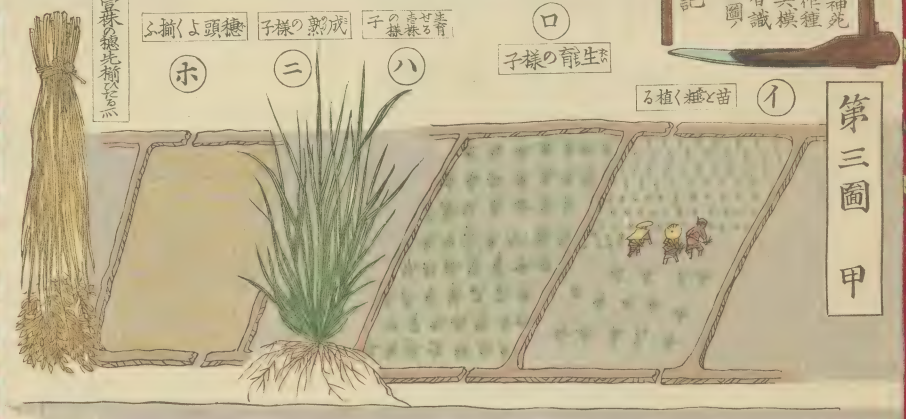
此圖解ハ明治廿四年四月伊勢國度會郡宇治山田町外宮神苑ノ前ニ建設スル農業館ニ掲クル掛圖ノ縮寫ナリ抑此館ハ農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶類ノ産物並製品及各種ノ標本、器具、模形、圖書、統計表等ヲ陳列シ參宮者ノ來觀ニ供シ以テ智識ノ發達ヲ促シ實業ノ便益ヲ知ラシメンコトヲ企圖スルニヨリ掛圖ノ如キモ漸次編成スル所ナリ

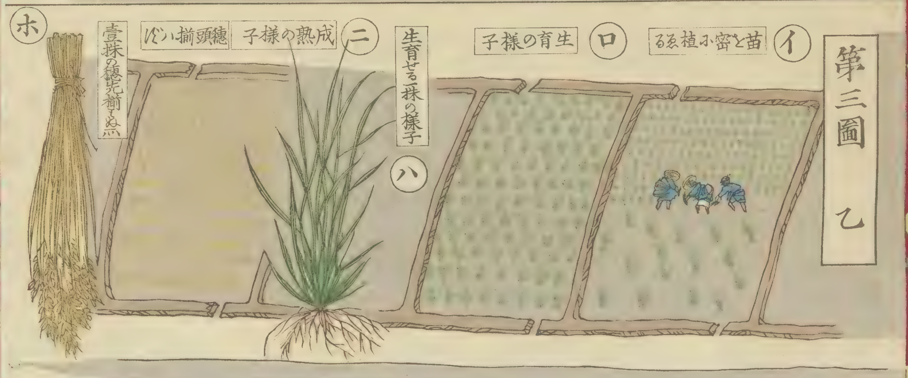
東京 神苑會幹事 田中芳男記

撰種図解の三

(四) 田植并ニ成長

苗を本田に植ゑるに塩水撰の方ハ普通の方より苗と苗との距離を遠くし且つ挿苗本數も少くして普通にて一株七八本づゝ七十株ならば植ゑる土地なれバ一株三四本づゝ四十株を植うべし去れとも此の本數株數ハ土地の肥瘠によりて同じからざれども唯其の割合の一例を示せるのみ偖て田植後苗の生育を見るに實に驚くべき程にて普通の苗ハ生育の早きものと遅きものとあり出穂不揃にして一様ならず故に成熟にも不同ありてその差著し塩撰の苗ハ之にひきかへ無穂よく揃ひ花の開く時ハ皆よく開きて少しも晩穂等なることなく見事に成熟せり(第三圖甲)





版權所有 明治二十五年十二月七日印刷 仝年仝月八日出版 定價金貳錢
縮圖者 小峰苗庵
明治廿五年八月 東京 田中芳男 再校
印刷兼發行者 東京芝區濱松町二丁目十五番地 鈴木卯之吉
賣捌所 仝區三田四國町壱番地 東京三田育種場

會彙圖掛館業農會苑神

此圖解ハ明治廿四年四月伊勢國度會郡宇治山田町外宮神苑ノ前ニ建設スル農業館ニ掲クル掛圖ノ縮寫ナリ抑此館ハ農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶類ノ産物並製品及各種ノ標本、器具、模形、圖書、統計表等ヲ陳列シ參宮者ノ來觀ニ供シ以テ智識ノ發達ヲ促シ實業ノ便益ヲ知ラシメンコトヲ企圖スルニヨリ掛圖ノ如キモ漸次編成スル所ナリ

東京 神苑會幹事 田中芳男記

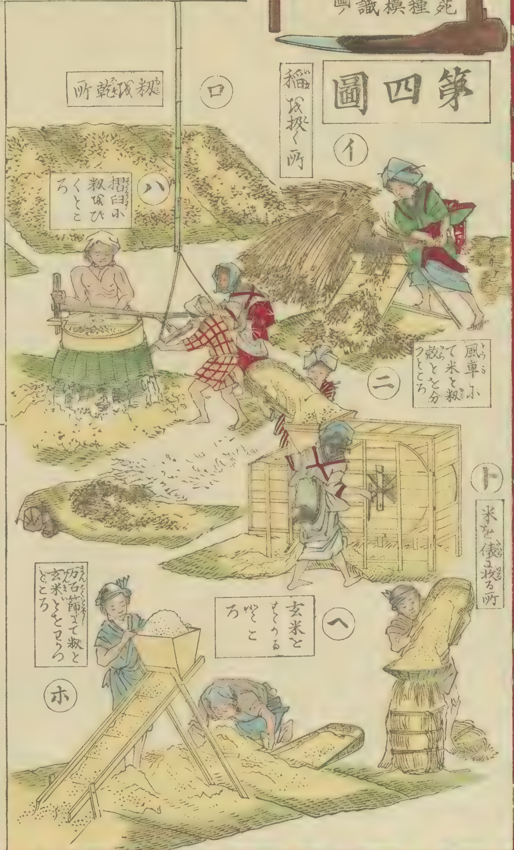
撰種図解の四

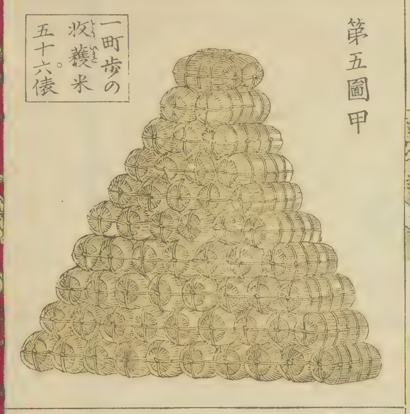
(五) 収穫

収穫の量ハ塩水撰は一段歩に付米二石二斗四升の収穫あり普通の方ハ一段歩に付米二石を収穫せる割合とすれは塩水撰の方ハ一段歩に付二石二斗四升なるを以て全く二斗四升の増し収穫あり

今塩水撰と普通の撰種せざる方と各一町歩の水田より穫る所の収量を比ぶれハ塩水撰の方ハ二十二石四斗此の俵數五十六俵にして普通の方ハ二十石此の俵數五十俵なりされハ塩水撰の方に利益あることニ石四斗此の俵數六俵なりされと塩水撰ハ塩の費用も掛るものなれバ米六俵の益なかるべしといふものあれとも前にいふ如く種籾を要すること普通より殆んど半額なれバ即ち種籾にて一段歩に付三四升の利益あり之れと一町歩に見積れバ三斗乃至四斗の益なりされは此の利益にて塩の入用ハ償ふことを得べけれバ前の六俵ハ全くの純益となるなり(第五圖の甲)

明治廿四年四月 東京 竹内太郎撰
仝 田中芳男閲
仝 髙田歳之助画





版權所有 明治二十五年十二月七日印刷 仝年仝月八日出版 定價金貳錢
縮圖者 小峰苗庵
明治廿五年八月 東京 田中芳男 再校
印刷兼發行者 東京芝區濱松町二丁目十五番地 鈴木卯之吉
賣捌所 仝區三田四國町壱番地 東京三田育種場

東京大学総合図書館

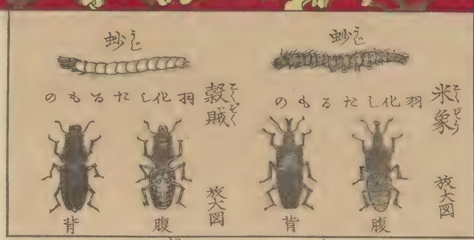
神苑會農業館掛圖畫會

版權所有
明治二十五年十二月七日印刷
仝年仝月八日出版
定價金貳錢
縮圖者 小峰苗庵

此圖解ハ明治廿四年四月伊勢國度會郡宇治山田町外宮神苑ノ前ニ建設スル農業館ニ掲クル掛圖ノ縮寫ナリ抑此館ハ農作種樹漁獵牧畜養蠶類ノ産物並製品及各種ノ標本器具模形圖書統計表等ヲ陳列シ參宮者ノ來觀ニ供シ以テ智識ノ發達ヲ促シ實業ノ便益ヲ知ラシメンコトヲ企圖スルニヨリ掛圖ノ如キモ漸次編成スル所ナリ

東京 神苑會幹事 田中芳男記

米象及ひ穀賊の圖解



米穀に害をなる虫の中に其の害は最も甚しきものハ米象穀賊の二種とす此の害虫が倉庫等に貯ふる米に一度發生するや忽ち殖え廣かりて其害は四方に及ほすものなり扨てこの二種の親蟲ハ孳みて後嘴口にて米粒に穴を穿け其の中に卵子を産み付く其後孵りて之子白色乃蛆となり次第に成長し米粒内にて蛹となり凡そ十日内外を過ぎ羽生へて米象穀賊となり喰ひ破りて這ひ出るなり卵子より親虫となるは四十四五日間なれバ一年中に數度生を出つ夏の頃に至れバ一雙の虫にて凡六千四十五頭の多き子孫を殖やすに至る此の虫は華氏の寒暖計六十六度上なれバ殖へ方甚しく五十度以下なれバ弱りて害を為すことなからす且つ此の虫は日光を嫌ひ又氣候の暖き間は米粒中に栖み朝夕冷氣になるときは壁又ハ木の隙間杯に隠るものなり此の二種の害虫を防ぎ又之を驅り除く法は次に示すが如し」新に米倉を設けんとするものハ林藪等にて日の當らざる所を撰ひ土臺を高く築き棟を高く建て入口北に向け床を高くし壁は成るべく厚く塗りて上屋を設くべし」在來の米倉に貯へんとするものハ豫て壁柱床等都て隙間なる所ハ漆灰にて塞ぎ損したる箇所ハ取り繕ひ床下にハ厚く籾莩を敷き又俵を積み重ねる時に其俵と俵との間にも能く籾莩を詰め其の積み重ねたる上及ひ其横手を遮ぎて覆ひよく戸を閉ぢ空氣の通ひを防ぐべし」米倉を所持せずして貯へんとするものハ能く其の俵と俵との間に籾莩を詰め遮ぎて充分に圍ひ廻らすべし」毎年土用前晴天の日に俵を解き莚に薄く散布し日に當て後俵に詰め貯ふべし」手入の時既に虫の害に罹りたるものあれバ悉く取除き他に移し殖へ廣からぬ樣うを遮し」手入る時の外ハ冬季にハひらさまが猥りに窓戸を開くべからず」此の虫の生せる米粒を日に乾せバ虫ハ悉く他に移るものなり」華氏百九十度以上の熱を與ふれバ卵蛆共に死するものなり」空倉内に潜む虫ハ嚴寒の時に兩三夜窓戸をひらき置くと良とし」倉は内いよく掃除して清くし且つ石灰水を以て洗ふ遮し」八九月の頃白花の梅の葉を採り乾かして俵の上下及ひ中程三箇所に一攫つゝ入きえの如くし置くときハ此の害に罹ことなし又有加利樹の葉を半乾しにまたるものも梅の葉と同し効能ありといふ

右ハ小野孫三郎氏圖説ニ據ル

明治廿四年四月

東京 黒田直夫編述
仝 田中芳男校閲
仝 川村富彦圖画

米を貯ふる倉庫の圖

東京大学総合図書館

明治三十二年九月十四日印刷 仝月廿四日發行 畫作兼印刷發行者 愛知縣名古屋市南園町二百八十三番戸 山田力三郎

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館